

母から子に伝えていくものは……

夢ら丘実果

むらおか・みか

画家・絵本作家。2007年、タイ国王御生誕80周年記念メモリアルポストカード原画製作。著書、画集「そよ風に誘われて」ほか多数。チェコ平和芸術親善大使。

特集対談

山根基世

やまね・もとよ

NHK退職後、「LLP ことばの社」を立ちあげる。著書「ことば」ほどおいしいものはない」「ことばで「私」を育てる」「女・今を一心に生きる」ほか。



母から受け継いだこと・子どもに伝えること

何にでもチャレンジするように

山根 ご両親ともに先生でいらして、
教育一家でいらっしやいますね。
夢ら丘 母は六人きょうだいの長女で、釧路の大自然の中で育ち、一

人で東京に出てきて養護教員になるという、とてもバイタリティーのある人でした。最初に就職したのが田園調布雙葉学園。ここでシスター方との交流を通じて、美しいことば遣いや人に対する細やかな心遣いを学んだそうです。その後、高知出身で高校の物理教師の父と出会いました。

山根 北海道と四国が結びついて夢ら丘さんが生まれた。広大な背景がありますね。

お母様の教育方針の特徴はどのようなところだったと思いますか。

夢ら丘 母は、強い精神力を持った楽観的で前進していくタイプでした。私は小さいときから喘息で病院を行ったり来たりする生活が続き、夜まで点滴して夜中に父の車で家に帰るといふ繰り返しでしたが、それでも甘やかさなかつたですね。喘息はハンデではあっても、何にでもチャレンジするように育てられました。絵本『せんそくさん、ありがと』（愛育社刊）にメッセージを込めました。子どもは喘息などに、おばけなど悪いイメージを持つようですが、そうではなく、「せんそく



さんは友達」として受け入れ、仲良く上手に付き合うことで困難を克服する力や物事を前向きに考える力などよい力をもらえる、と。

山根 お母様から伝えられた考え方なんです。どうしても病氣の子を抱えたお母さんは神経質になって、腫れ物に触るようになり大事に大事に育てる方が多いですね。

夢ら丘 母は子どもの心身のケアを勉強していたこともあったでしょうし、自分自身が忙しく、かまっていられなかったと思います。でも逆にそれがよかったようで、私は小さいときから、ちょっと苦しいときでも一人で留守番したりしていました。

山根 何人きょうだいですか。
夢ら丘 二つ上の姉がいます。母は、学校が早いので先に出掛けてしまい、姉と一緒に、母が準備してく

れた朝食を食べて、戸締りをして登校していました。母の帰りは遅く、夜七時くらいまで学校で仕事をして、家に帰っても、その日あったことをまとめたり、学校の子どものために幸せと健康のためという強い使命感を持っていたので、夜遅くまで資料を作ったり、保健室よりなどを書いていて、その姿を見ていましたから、私は、病氣だからと甘えられないと感じていました。口やかましく「何かしなさい、努力しなさい」と言われなくても、やらなければいけない、と自然に学べた環境でした。

山根 忙しくお仕事なさっていたから、逆にそれが喘息にも効いたというところかしら。箱入り状態で過保護にされていたら、症状がかえって悪くなったかしらね。
夢ら丘 全然違ったと思います。

学校に行くこうと思っても行けない日が続いて、ひどくすると気管支拡張剤の点滴のために何日も動けなくなることもありました。小学四年のとき、中学一年の成長期はほぼ一学期間学校に行けなくて。学校を休むとどうしても勉強が遅れるのですが、友達がノートを届けてくれて励ましてくれましたし、母親も教科書の進度はこじやないか、と一緒に読んでくれたので方向性も分かり、やる気も起きていました。

山根 そうは言っても喘息で、ご本人はつらいものがあるでしょう。

夢ら丘 私は負けたくない精神が旺盛で、発表会のためにコツコツ準備していたのに発作が起きて休む。テストの勉強をしていたのに当日休む。すごく悔しい思いをしました。でも常に母が言っていたのが、「長い人生の中で、そんなことは大した失敗じゃない」失敗は成功の元だから、そこからまた頑張ればいい。私はまだ小さくて「人生」も分からず落ち込むのですが、母は挫折や失敗で子どもが鍛えられて成長していくことを把握していて、目先のことに

らわれず、どんな指針を与えたらいいのかを考えて語っていたようです。
山根 ご自身が悩んだり、お母様との葛藤みたいなものはなかったのですか。

夢ら丘 葛藤……なかったですね。思春期に、母親があまりにも素晴らしいので、私はそういうふうになれないと思ってみたり、そこまでは完璧にできないと議論した記憶はありますが。頑張り屋の尊敬に値する母親でした。学校の仕事を終えて家に帰ってからは、掃除、洗濯、手料理も徹底していましたし。

山根 お母様は何年生まれでいらっしゃるの？

夢ら丘 昭和七年です。

山根 昭和一年は頑張るんですね。

夢ら丘 (笑い) 子育ては、自分の妹や弟で経験していて、人の面倒を見るのが当然のように育っているの、何をすることも自分のことよりも人のお世話。今、モンスター・ベアレントという自己主張ばかりして周りを見ない親が多くなりましたが、母は周囲を思いやる人ですね。なの

で、謙虚に常に感謝を、と言われて育ちました。

山根 お姉様とお母様の関係も、あなたとお母様の関係と同じですか。

夢ら丘 姉も母親は立派だと尊敬しています。ただ、姉はとても健康

でしたが、私の喘息があまりにも重症だったので、両親二人で面倒を見なければならぬ時間が多すぎた分だけ、母は、姉との時間が減ってしまっただけです。姉は、私と同じくらいの時間を母と過ごしたかったのではないかと思います。ですから子どもの病気でどうしても偏りがちになるところを、気をつけなければなりませんね。小さいうちから子どもの話を耳を傾けて、よく聞いてあげて肯定して受け入れる。い

つ話してもいいんだよ、という関係を作って信頼関係を築き、愛情の大きな基盤を作る。問題が起きて乗り越えるために子どもが相談できる関係を作ることが大事だと思います。

山根 どれだけ頑張る人でも時間は同じで、だれも平等な二十四時間の中でやるべきことはたくさんあるわけだから、どこにウェイトを置くかというのは自ら差は出てくるわけですよ。でも、母と娘というのは、夢ら丘さんみたいに、完璧なお母様を尊敬して、素晴らしい母だつて言える人は、そう多くないような気がしますけど。

夢ら丘 私は、中学二年の娘から見たらほとんど〇点かもしれない。(笑い)

「ママがいるだけでうれしい」



母から受け継いだこと・子どもに伝えること

山根 お母様とご自分を比べてみると、どう違いますか？

夢ら丘 恥ずかしくなるくらいだめです。母親から学んだことを実践するようにはしていますが、体力的な問題もありますし、あのバイタリテイや細やかに動く速さ、時間配分の上手さ、愛情のかけ方など、できないことだらけです。私が子どもにできることは絵を描くことが仕事なので、その後ろ姿を見せることだと思つて、コツコツ頑張っています。完璧な母親であっても、そうでなくても、子どもは、たっぶりの愛に包まれたいのではないのでしょうか？

ふだん、猫がたずむイングリッ シュガーデンをテーマに絵を描いているのですが、「この花とこの花とどっちが好き？」「猫はどんなポーズにしたらいいか？」と子どもに聞いたりして、絵をきつかけに会話するようにしています。絵本『ぜんそくさん、ありがとう』を作っているときは、「学校で病気の子はいじめられていない？」と話をするなどしていました。最近作った絵本『カーくんと森のなかまたち』(ワイ

ズ・アウル刊)は、元気がない友達がいいたら、声をかけ、支え合い助け合うことが大事だという思いで描いたのですが、娘に「どうして落ち込んでいたカーくんはだんだん元気になったのかな？」などと感想を聞いて、度々話し合いました。話しているうちに、気がつかなかった子どもの考えが分かることもあります。働く姿を見せつつ、交流することで子どもはたぶん、母親への理解を深めていると思います。母もよく、学校で何をしているか話してくれていましたので。

山根 ご家庭で、お母様がそばにいただけですべてが学べたという感じですか。

夢ら丘 かなりのことが学べたと思います。

山根 ご自身はお嬢さんに対して、また違う母親像でのぞんでらして、ご自分の弱みをさらけ出しているみたいなどころもおありになるようですね。

夢ら丘 六年前、私は、青信号で横断歩道を渡っていて脇見運転の車にはねられ、地面にたたきつけられ

て左の頭を強打し、右半身がマヒしました。二年間リハビリを続けましたが、細い鉛筆すら持てないし、家族のこともまともに何もできなくなりました。存在価値を感じられず、人のために何もなっていないとひどく落ち込みました。当時小学二年だった娘のほうがりっかりしていて、背中をさすってくれたり。その子どもも前であまりにつらくて「ママなんていなくなってもいいよね」と、言っただけのこと言ったので、子どもは「ママがいるだけでうれしいんだ」と。どうしてそんなことが言えるのか不思議だったので、私は喘息で入院することもあって、子どもは私を助ける精神を学んでしまったようで、よく元気づけてくれました。それが力強く、夫や母や姉たちの支えもあって、だんだん元気になっていきました。



九八年から自殺者が九年連続で三万人を超え、去年は自殺対策基本法に基づき、自殺予防週間も制定されたので、それに合わせて何かできないかと思ひ、自分の経験から「カーくん」と森のなかまたち」を作り、学校で読み聞かせをさせていただいていますが、子どもたちがうつ状態の中のあるのを実感しますね。先生にも両親にも言えずに落ち込んでいます。学校、塾、友達、家庭、それぞれの問題が複雑にからまって悩み、だれにも話せない。そんな子どもが増えています。小学校も高学年は十人以上、中学生は四人に一人がうつ状態という絵本解説者、東海大学の保坂隆教授のレポートがあります。五月には「心の安全週間」という「うつ予防対策」の啓発活動の取り組みもあるのですが、早いうちから子どもものうつに気づくような周りの環境

が大事だと思ひます。まずは家庭で話す環境を作っていくこと。肯定して受け入れてあげる。子どもはいじめられていてもなかなか言わないですが、元氣のない子がいたら手を握ってあげたり、抱きしめてあげたりして話を誘導することはできます。私も娘との会話には氣をつけていま

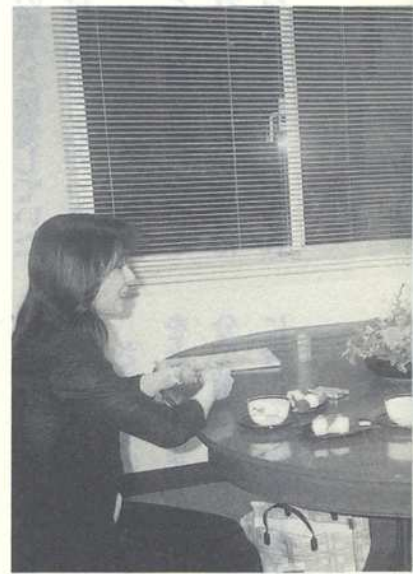
愛をもつて観ること・「観」守ること

山根 愛情というのは結局、愛を持って観ること。観察の観で「観」守ることが愛情の第一歩でしょうね。つい、手を出したり口を出したりしますが。

家庭の中で、コミュニケーションがちゃんと取れていけば問題ないわけですが、それでもなお、これだけ子どもたちがいろんな事件、一瞬の激情にかられて取り返しのつかない事件を引き起こしていますね。そういう家庭での母と子の関係は、どうすればいいと思ひますか。そういう関係しか築けない家族が現実にはいっぱいあるわけですね、世の中には**夢ら丘** 問題が大きくなってからでは難しいと思ひます。大人が会社

す。身近でもいじめは多いし、不登校になった子どももいれば、命を断とうとした子もいますし。元氣がないならすぐに分かりますが、集中力がなくなったり、もの忘れがひどくなるのが実際のサインだったりするので、よくよく見ている必要がありますね。

の中でいじめていますよね。それは小さいときに、人をいじめてもいいという感覚を持ち、だれにも矯正されずに罪悪感を持たないで育った人がやっている、いじめを再生しているように思ひます。問題が起きて、いじめてはいけない、と言っても遅い。その前に学校や家庭の中で、いじめるとは非常に卑劣な行為で、世の中には身体的な差異や障がい、病氣がある人がいて、周囲となじみず孤立したり、周りとおちよつと違うなど、様々な人がいて、そういう面を見ていじめるのはとんでもないことだと教育し、それに加担するのはいけないことだと教える。逆に自分のほうから、そんなことはやめよ



う、と言わないと、いじめられてい
る人は救われないし、世の中は変わ
らない。根本的には小さいときから
の愛と教育が大事だと思っています。

問題は大きくなってしまった場合
は、両親が真剣に子どもと向き合い、
誠実に子どもを思ふ気持ちを伝える
努力が必要だと思っています。同時に
専門家や周りのサポートも大変重要
だと思います。子どもを地域社会で
育てる。私は小さいときは近所のお
じさん、おばさんの家に勝手に遊び
に行っていました。お母さんが共働
きしていて面倒が見れなくても、地
域の方と仲良くして、地域行事にも
参加したりして交流すると、足りな
い愛情が補える例もたくさんありま
す。皆で育てるという感覚が大事だ
と思います。

う、と言わないと、いじめられてい
る人は救われないし、世の中は変わ
らない。根本的には小さいときから
の愛と教育が大事だと思っています。

一年の男の子のいことたちときよう
だいのように行き来していますし、
祖父母と話すこともとても楽しいよ
うで、おおらかに育っています。母
親の私の意見に反発しても、祖母の
おいしい手料理を食べながら話して
納得したり、学校で問題があったり、
挫折しても、安定して頑張る力を得
ているようです。祖父母やいろいろ
な方との交流が育つ力になると思い
ます。私は、高知の大自然の中で自
給自足の生活をする明治生まれの祖
母からも大事なことを学びました。
人に頼らず一人で生活していた祖母
は、泊まりにいくと、畑から新鮮な
野菜などを採って来ておいしい手料
理を作ってくれました。先祖代々受
け継いできたいのちの大切さ、感謝
していただく食の大切さを身をもつ

て教えてくれました。かけがえのな
い財産です。

山根 世の中で必要なのは聴く耳
だと思っています。今の人はみんな自分
が言いたい人で、カラオケ状態。自
分が発信したい、自分がしゃべりた
い、自分が表現したい人ばかりです
ね。子ども化していると言っのかな。
昔はおじいちゃん、おばあちゃんの
ように「ああ、そうかい、そうか
い」と聴く耳を持ってじっと聞いて
くれる人がいましたが、今はない。
これからそうした社会的な役割、仕
組みを作らなければいけないと思っ
ますね。

夢ら丘 子どもの気持ちに共感し
て寄り添って時間をかけて聞くこと
ですね。話せない子どもも多いので、
相手に伝わるように話すことを教え
るのも大事ですね。

山根 たしかに子どもたちが事件
を引き起こしている背景に、自分を
表現できないことがありますね。自
分の中に渦巻いているものを外に出
せないのはものすごく苦しいでしょ
う。自分でできちんとことばにして、
表に出す。小さいうちから周囲の人
といい関係が結べるようなことばの
使い方を身につけて、ことばによっ
て周囲の人といい関係を築くことは、
人生を幸せに生きられる一つの条件
ですね。

日本の国語教育は書きことばが中
心で、話しことばを育てる場はまだ
未熟です。人間力としてのことば、
基本的なありがとうやごめんなさい
なども含めて、自分を伝え、相手を
受けとめることばを母から子に伝え
ていく、前の世代から次の世代に伝
えていくことが大事ですね。